様式１（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
1　前年度 評価結果の概要	・学力向上・・・・・・・・・・１人１台端末という恵まれた環境を生かし、学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習のさらなる充実を目指す。 ・道徳教育の充実・・・・・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め教育活動全般を通して、育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育・・・・・・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身につける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・教職員の資質向上「学ぶ集団」・・・学校目標達成に向けて、それぞれの教職員が明確なビジョンをもち、情報を共有しながらともに育ちあう教師集団を目指す。
2　学校教育目標	学ぶことが楽しいことだと実感する児童の育成
3　本年度の重点目標	・１人１台端末を活用した授業改善　～「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現を目指して～ ・やり抜く力を育てる学校づくり　～目標に向かって、粘り強く取り組む子どもの育成～

4　重点取組内容・成果指標				中間評価		5　最終評価				主な担当者
（1）共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上	・学力向上対策委員会を年に2回開催し、教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標に向けて計画的に実践できたと自己申告する教師は、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」を合わせると94.7%であった。 ・研修会を開き、評価シートをもとに共通理解・実践を図ってきた結果、1人１台端末を活用した授業実践が、「とてもできた」「だいたいそうだ」と答えた教師は89.5%であった。今後、全職員で実践を共有化していく必要がある。	B	・マイプランの成果指標に向けて計画的に実践できたと自己申告する教師は、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」を合わせると100%であった。ただし、その中の90%が「だいたいそうだ」なので、今後「とてもそうだ」を増やしていく取組の必要性がある。 ・1人１台端末を活用した授業実践については、「とてもできた」が36.4%、「だいたいそうだ」は54.5%で、計90.9%であった。 ・学力向上に関する研修会をさらに開き、「国・県の学習状況調査」や「標準学力調査」（CRT）、単元別のテスト結果の分析をし、各学年の傾向や対策を検討し、共通理解を図っていきたい。	B	・一人一台端末を活用した授業実践がおおむね達成されている。 ・学力向上に関する研修会を更に開催し、取り組みの促進を図ってもらいたい。	松永（学力向上対策コーディネーター）
	○ICTを活用した教育の推進 ・1人１台端末を活用した授業実践 ・タブレットの活用状況の向上	○教師のICT機器の利用率を80％以上にする。 ○「タブレットドリル」学習の実施率を全学年100％にする。	・校内研究に位置づけ、校内研修及び各種研修等を通して、教師の１人１台端末を活用した授業改善を図る。	B	・「協働的な学び」「個別最適な学び」「年間指導計画」のチームに分かれ、タブレットを使った授業を実践することができている。今後は、情報モラルや情報スキル等の年間計画を整理する予定。 ・タブレットドリルについては、ソフトの動きがうまくいかず、学校における活用がうまくできていない。	B	・職員を3チームに分け、各チームで勉強会を行った。全員がチームに配属されたことで、各々が自分事として研究に参加できていた。8月にはそれぞれのチームで得た情報や知識を発表し合い、全体に共有したことで、９月以降の授業実践に役立てることができた。また、スキルアップ研修を5回開催し、授業実践例の紹介や、オンライン授業に関わる模擬授業を行った。日頃から端末の活用について情報交換を行ってきたこともあり、授業実践に必要なスキルが向上した。 ・12月のICTオープンデーでは、全担任が一人一台端末を活用した授業実践を公開し、他校の先生方への発信という大きな役目を果たすことができた。 ・児童や教師のタブレットスキルに関するアンケート、児童の授業に関するアンケート、教師の授業力に関するアンケートを実施した。一年間で、児童、教師ともタブレットスキルが大幅に向上した。	A	・ICTを活用した授業実践に必要なスキルの向上も成果として出されている状況を高評価する。 ・ICT機器を活用した授業を全担任の先生方ができたこと、研修会等を何回も開催された結果です。これからもスキルアップを目指してほしい。 ・ICT公開授業（ICTオープンデー）は、先生方、児童も、スムーズに授業が行われ、素晴らしいと思う。	徳永（研究主任） 嘉村（ICT教員担当）
	○基本的学習習慣の取り組み ・授業中の学習習慣の定着 ・家庭学習のさらなる充実	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習ができた児童の割合を90％以上にする	・主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習課題や授業改善を図る。 ・家庭学習ノートの学年に応じた指導を行い全学年で実施する。家庭との連携を図りながら全職員による指導・徹底に取り組む。	B	・低学年よりラーニングピラミッドを意識した授業改善を進めている。授業改善を意識した実践ができたかどうかでは「とてもそうだ」が15.8%、「だいたいそうだ」が78.9%であった。「とてもそうだ」の割合を増やしていく必要がある。 ・家庭学習ノートへの取り組みについて9月実施の上学年アンケート調査で「できた」と答えた児童は、93%と定着が図られている。	A	・1人1台端末を活用した授業を実践することができた。職員アンケートでは「とてもそうだ」が36%、「だいたいそうだ」が55%、合計91%であった。 ・家庭学習ノートへの取り組みついては、2月実施の全学年アンケートで、「できた」と答えた児童は、85%と高い水準をキープしており、上学年に限らず全学年で定着を図ることができた。	A	・家庭学習ノートの学年に応じた指導が実証され、家庭学習ノートの取組が定着されている。家庭との連携による家庭学習のさらなる充実を図ってもらいたい。	学習部（松尾・徳永・井手・松永・嘉村） 家庭学習（井手）
●心の教育	◎児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、子どもの豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている教師80％以上。	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の学習の足跡掲示コーナーに道徳の学習の足跡も定期的に掲示する。	B	・94.7%の教師が日々の生活や道徳の授業を通して、子どもの豊かな心の育成のため、学習や活動の工夫に努めている。 ・常に子どもたちの目に届くように学級で掲示している学級が少ないため、呼びかけていく。	A	・95.5%の教師が子どもたちの豊かな心の育成のために、学習や活動の工夫に努めることができている。 ・人権同和教育についての校内研修があったことにより、道徳科の中で人権について考える時間を作ることができた。		・子どもの豊かな心の育成のため、教員が学習や活動の工夫に努められている。	松田 （道徳教育推進教員）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○人権・同和教育の推進	○ 学校で安心して楽しく過ごせているという児童の意識を90％にする。	・ 毎週1回「気になる子」報告会を行う。 ・ アンケートを実施して状況把握をし、いじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・ いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し、全職員で共通理解して指導・支援にあたる。 ・全教科を通して、人権・同和教育を推進していく。特に、児童が日常的に使用する言葉への指導を徹底する。	B	・「気になる子」の報告会を実施し、全職員共通理解を図ることができている。今後も継続し、児童への指導、支援につなげていく。 ・事前に児童へアンケートを取った上で、全児童対象の教育相談を実施し、気になる事案について、またその関係児童に対しての見守りや指導、支援につなげていった。2学期も再度教育相談を実施し、いじめ等の早期発見、早期対応につなげていく。 ・児童アンケート「学校で安心して楽しく過ごせていますか？」への回答で、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」という肯定的に答えている児童が89%であり、ほぼ目標値に達している。しかし、11%の児童は否定的な回答をしているので、特にその児童の見守りや指導、支援をしていき、いじめの早期発見、早期対応につなげていく。 ・今後、全校人権集会を実施するとともに、それに合わせ、各学級で人権について考える場を持ち、児童の人権意識高揚に努める。	A	・児童アンケート「学校で安心して楽しく過ごせていますか？」への回答で、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」という肯定的に答えている児童が89.7%であり、ほぼ目標値に達した。また、保護者アンケート「子どもさんは毎日楽しく学校に行っていますか？」への回答で、「とてもそうだ」「だいたいそうだ」という肯定的に答えている保護者が92.2%であり、目標値を上回った。しかし、数件のいじめ事案が発生し、その対応にあたったが、未然に防ぐことができなかったことを考えると、十分達成とは言い難い。 ・「気になる子」の報告会を実施し、全職員共通理解を図り、その児童や周囲の児童への指導、支援につなげることができた。 ・1学期に引き続き、再度2学期も教育相談を実施したことで、いじめ等の防止や早期発見、早期対応につなげていくことができた。 ・校内人権週間や人権集会の機会を捉え、各学級で人権標語や人権合言葉などをつくる場を設けた。人権について考える場がしっかりとられたことにより、児童の人権意識が高まった。	A	・児童が学校で安心して楽しく過ごすということは、何よりも大切なことと思う。保護者の方もそれを願っていると思う。 ・今後の早期発見・早期対応の取組が図られることを切望する。	溝上（生徒指導主任） 大古場・秀島 （人権・同和教育担当） 桑原・大西 （教育相談担当）

		○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にした相談活動を年間8回以上実施する。 ・会議の報告をして、職員で共通理解を図る。 ・情報交換を行う。	・計画的、定期的に会議（支援会議、気になる子の報告、スマイル会議、巡回相談等）を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。	B	・計画的・定期的に会議を実施することができ、その中で児童の実態把握や関係機関との連携を図ることはできた。今後、支援体制の構築まで、連携を強化していきたい。	B	・スマイル会議はコロナによる影響で2回中止になったが、計画的・定期的に実施することができた。関係機関との連携も迅速に図ることができた。 ・今後もできる限り、外部機関との連携を図り、専門的な知見を得ていきたい。また、特別支援部の中での情報交換・共通理解も、より一層深めていきたい。	A	・会議が計画的・定期的に実施されており、関係機関との連携も図られていおり、取組を高く評価する。	松瀬 （特別支援部部長）
	●健康・体つくり	❶「望ましい生活習慣の形成」 ❷「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❶「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を80％以上 ❷「健康に食事は大切である」と考える児童90％以上	❶睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ❷各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	A	・1学期振り返りアンケートにおいて「早寝、早起き、朝ご飯」ができていると回答した児童は81.9%であった。 ・1学期振り返りアンケートにおいて「健康に食事は大切である」と考えている児童は98.2%であった。 ・8月に学校保健委員会を実施し、各学級の指導に生かせるように、その内容を全職員に周知した。	A	・2月の振り返りアンケートにおいて「早寝、早起き、朝ご飯」ができると回答した児童は87.7%であった。 ・2月の振り返りアンケートにおいて「健康に食事は大切である」考えている児童は99.0%であった。 ・保健指導が必要な児童においては、冬休み等に個別に指導を行った。 ・学校だよりや保健室前の掲示板を活用し、よりよい生活の習慣化に向けて啓発を行った。	A	・「食事が大切だ」と考えている児童が99%と言うのは素晴らしい。 ・学校だより（校長室だより）は、地域住民に配布され、住民の意識が高まっている。	小川（食育担当） 原（養護教諭）
		○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する子ども一人一人の学びの充実を大切にしようとする教員８０％以上	・日々の体育の授業を中心にして、大縄トライアルやスポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する 取り組みを実施し、学級指導に活用する。	A	・9月の１学期振り返りアンケートにおいて「体力向上に関する子ども一人ひとりの学びの充実を大切にしようとする教員は82%と目標をクリアすることができた。 ・今年度は、スポーツフェスタを9月までに行うことができ、児童は楽しそうに活動した。スポーツテストも2年生以上は取り組むことができた。	A	・2月の2学期振り返りアンケートにおいて「体力向上に関する子ども一人ひとりの学びの充実を大切にしようとする教員は90.9%と目標をクリアすることができた。 ・9月以降、大縄大会を実施することができ、児童は楽しそうに活動した。来年は、大縄大会は実施しない。スポーツテストの結果については、県に報告することができた。	A	・体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教員が多い。	中村 （体力向上担当）
		○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が80％以上。 ②水難危険個所等の防災上重要な箇所の職員による把握が100％	・月に1回の緊急放送訓練の実施（児童向け） ・全校朝会での防災に関する説話（児童向け） ・佐賀豪雨に関する写真等の掲示 ・危険個所の把握に関する研修（職員向け） ・危険個所の実地確認（職員向け）	B	・水難危険個所等の防災上重要な箇所の把握ができている職員が79%であり、達成しているとは言えない。 ・緊急放送は、ほとんど計画通りに実施できたので、2学期も引き続き実施していきたい。 ・全校朝会で、佐賀豪雨に関する写真や動画を見せながら説話をすることで、児童の防災意識を高めることができた。 ・危険個所の把握に関する研修や実地確認ができておらず、2学期に研修を計画したい。	B	・水難危険個所等の防災上重要な箇所を把握している職員が81.8%である。目標の100%には届かず、達成できなかった。 ・年間を通して緊急放送をほぼ実施することができた。緊急放送の時には、その場に座り静かに放送に耳を傾けることができている。 ・職員全体への研修はできなかったが、全校朝会で佐賀豪雨の様子や地域の氾濫危険箇所の紹介をすることができた。 ・年2回避難訓練を実施した。武雄警察署から避難の様子を講評してもらい、児童の防災意識が高まるように努めた。	B	・防災上重要な水難危険個所等を把握していることは、大事とはいえ、そうした個所を把握している職員の意識を目標値をクリアすることを切望する。	山口 （防災教育担当）
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料等早めの配布をし、会議時間の短縮を図る。 ・事務職員の支援体制。校納金・服務関係帳簿の点検等を毎月末に行う。	B	・教務主任と連携し、会議資料の集約を早めに行い、全職員が事前に目を通すようにしたことで、短時間で要点を絞った協議ができた。 ・帳簿点検を毎月末に行うことができた。	B	・2学期に「校内働き方改革委員会」を実施し、業務に係る課題を洗い出し、可能なところから改善を図った。 ・会議の持ち方などの計画を見直し、業務時間の見通しをもちやすくした。 ・帳簿点検を毎月末に行うことができなかった。	B	・会議時間の短縮や工夫が図られている。	教頭・事務長
		○教職員の働き方に対する意識改革を行い タイムマネジメント能力の育成を図る。	○タイムレコーダーを活用し教職員の勤怠管理を行い、会議や業務の効率化を進めながら前年度同月比5%減にする。	・毎月の「業務チェックシート」で勤務時間の課題を確認する。 ・定時退勤日には、全教職員に声をかける。	B	・月半分の時間外勤務時間を各職員に伝え、毎月の業務改善の意識づけにつなげることができた。 ・業務チェックシートが形骸化しているので、「校内働き方改革委員会」を通して改善を図りたい。	B	・月末に時間外勤務時間を各職員に伝え、毎月の業務改善の意識づけにつなげることができた。時間外勤務時間は、前年比と大きく変化はなかったが、勤務終了時刻や定時退勤日を意識する職員が増えてきた。時間外勤務時間のさらなる減少を図るために、次年度に向けて行事精選の計画を立てることができた。	B	・先生方の業務は多いと思うが、少しでも効率化を図って、時間外勤務の削減をしてほしい。 ・職員の時間外勤務間のさらなる減少を図ってもらいたい。	教頭・事務長

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
◎学級経営の充実	◎児童一人一人が、目標を設定し、やり抜く力をつける。	※（各学級の経営方針による）	※（各学級の経営方針による）	B	・学級経営案に基づいた教育実践ができたと回答した職員が、約94パーセントであった。今後は、やりぬく力を育成できるような、目標の設定や学級経営を行うことが必要である。	A	・学級経営案に基づいた教育実践が「とてもできた」「だいたいできた」と回答した学級担任が全員であった。やり抜く力の育成を意識した授業実践や学級経営など教師の資質向上が今後の課題である。	A	・引き続き、全先生方の学級運営案に基づいた教育実践に努めていただけたらと思う。	各担任
○花まるタイムの定着	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80％以上。	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童の交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用（地域との連携）	B	・児童にとったアンケートでは、肯定的な回答をする児童が71％であった。 ・花まるタイムの職員研修は随時行っている。 ・今年度はコロナウイルス感染症対策のため、花まる支援員の方と交流している姿を取り上げることができていないが、今後は緩和されてから行う予定。 ・地域の方のGT活用は、コロナウイルス感染症対策のため十分にできていない。	B	・児童アンケートでは、肯定的な回答をする児童が78%と目標に届くことができなかった。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため花まる支援員さんを活用することができなかった。 ・地域の方のGT活用は、コロナウイルス感染症対策のため、年間通して、十分にできなかった。	B	・早くコロナが収束し、地域住民による児童の学校生活支援が実施できるようになることを切望する。 ・花まるタイムの支援ができなかったことは、残念に思う。 ・花まる支援が、今年度は叶わず、残念だった。地域の方々が、花まるタイムの再開を楽しみにしている。	松江（花まる担当）

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・学力向上･････････････････････一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の更なる充実を目指す。 ・道徳教育の充実･････････････････「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育･････････････････すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・業務改善・働き方改革･････････････それぞれの教職員が働き方に対するする意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。